

鳴門教育大学大学院
高度学校教育実践専攻 教科・総合系
技術・工業・情報科教育コース

技術・工業・情報



技術・工業・情報

検索



高度学校教育実践専攻 教科・総合系 技術・工業・情報科教育コースの概要

多様な大学院生の受け入れ、
個に応じたきめ細かい教育
研究指導を行っています。

学校教員は

最新の技術と情報についての学びを、
実践的に教育に活かす研究ができます。

教員養成系学部
大学卒業者は

より高度かつ広い技術力を
備えた学校教員になること
ができます。

大学院
専門職学位課程

技術教育実践力

材料加工, 機械, 電気・電子, 情報

+

発達支援力

マネジメント力

子ども対応力

学習指導改善力

教職実践力

+

学校現場での
フィールドワーク

工・農・経済
情報系学部等
大学卒業者は

専門学部で学んだことを
活かせる豊富な教育実
践研究テーマがあります。
また教員免許を取得でき
ます。

短期大学
高等専門学校
省庁大学校
専門学校等
卒業者は

個別に大学院入学資格
の審査を受けて認めら
れれば受験できます。

社会人は

専門性を活かせる豊富
な教育実践研究テーマ
があります。
また教員免許を取得でき
ます。

二 年 制

教員免許(専修)

中 学 校(技術)
高等学校(工業)
高等学校(情報)

学校教員養成
プログラム

(長期履修制度)

教員免許

小学校・中学校
(高等学校)

充実した研究指導
と教育実習環境,
実験・実習設備に
よる確かな技術力
を備えた学校教員・
技術者等の育成

教職修士(専門職)の学位

学校教員



兵庫教育大学大学院
連合学校教育学研究科
(博士課程)教科教育実践学専攻
(生活・健康系教育)

研究者
大学教員



技術・工業・情報科教育コースの特色



教育実践研究の例

- 学校教育におけるプログラミング教育に関する研究
- 樹木年輪・湖沼堆積物による年代測定と古環境復元
- 3Dプリンタやレーザーカッター等を使ったデジタルものづくり
- 電動工具を多用した木材加工の授業開発
- 設計力の向上による創造力の育成
- IoT学習のためのものづくり教材の開発
- 計測・制御のプログラミングを題材とした問題発見・解決能力を育成するための授業の検討
- 高校共通教科情報におけるプログラミング授業の検討
- 小学校プログラミング教育におけるアルゴリズムを題材にした授業案の検討
- 小・中・高等学校での技術・情報教育教材開発に関する研究
- 小・中・高等学校での技術・情報教育教材開発に関する研究
- 自律型ロボットを用いた計測・制御教育に関する研究
- 各種センサーのネットワーク化に関する研究

大学院修了者の進路

- 中学校・技術科教員(徳島県, 香川県, 岡山県, 兵庫県, 大阪府, 神戸市, 大阪市, 京都市, 愛知県, 静岡県, 東京都, 神奈川県, 福岡県など)
- 高等学校・工業科教員(徳島県, 香川県, 愛媛県, 大阪府, 神戸市など)
- 高等学校・情報科教員(徳島県, 広島県, 東京都, 愛知県など)
- 大学教員(広島大学, 山口大学, 鳴門教育大学など)

小学校, 中学校(技術), 高等学校(工業), 高等学校(情報)の 教員免許(専修)を取得できます。

学校教員養成プログラム(長期履修制度)を利用することによって, 教員免許をまったく取得していない場合でも, 所定の単位を修得することにより小学校または中学校, 高等学校の教員免許も取得できます。

技術・工業・情報科教育コースの選抜試験 (8月程選抜試験の場合)

試験内容及び留意事項
実技試験は, 1人20分で実施します。 ①出願時に提出した小論文の内容に関する口頭発表 口頭発表の際, 実物投影機能付きプロジェクタ (A4版までの普通紙のみに対応) を利用できますので, 説明に利用する場合は, 事前に資料や制作物等を作成し持参してください。また, 黒板も利用できます。 ※パソコン等は利用できません。 口頭発表時間: 7分間 ②口頭発表に関する口述試験

(注) この実技試験の終了後, 引き続き口述試験 (15分程度) を行います。

- 出願時に提出する小論文の題目は, 「鳴門教育大学大学院において取り組みたい実践研究課題について」です。
- 小論文は, 実践研究課題の背景, 目的, 内容, 方法等を自分の考え(卒業研究等や個別に取り組んだ課題探求, 教育実践, 実験実習, 研究開発, 製作等の事例を含めてもよい。)に基づいて記述してください。
- 日本語で800字程度, 横書きとしてください。パソコン等で作成した場合は, 所定用紙の枠内に収まるように貼り付けてください。
- 説明をさらに必要とする場合は, 図や写真等の補足資料を添付してもかまいません。

「教職経験者等」に該当する受験者は, 口述試験のみとなり, 実技試験を課しませんので「小論文」を提出する必要はありません。

技術・工業・情報科教育コースの教員紹介



明るくアットホームな研究室で活躍してみませんか？

担当分野

情報

研究内容

地球観測情報処理, 自律型ロボットの開発と教育利用に関する研究

電子メール

ito@naruto-u.ac.jp

ITO Yosuke
伊藤 陽介 教授



本当に機能するものづくりができる教師を目指しましょう。

担当分野

機械

研究内容

3D-CADや3Dプリンタの活用, 海洋エネルギー利用, エネルギー変換教材の開発

電子メール

miyasita@naruto-u.ac.jp

MIYASHITA Koichi
宮下 晃一 教授



創造的なものづくりにチャレンジしませんか？

担当分野

電気

研究内容

核融合等におけるプラズマ理工学, 電子・イオンビーム装置に関する研究, 電気技術の教育分野への応用

電子メール

kmiyamot@naruto-u.ac.jp

MIYAMOTO Kenji
宮本 賢治 教授



何か興味のあることが、ここで見つかるはずです。

担当分野

材料加工(木材)

研究内容

樹木年輪を用いた古環境, 古気候の復元

電子メール

yn@naruto-u.ac.jp

YONENOBU Hitoshi
米延 仁志 教授



安全なネットワークを目指して。

担当分野

情報

研究内容

ネットワークの利用やセキュリティ, 情報システムの運用に関する研究

電子メール

naosone@naruto-u.ac.jp

SONE Naoto
曾根 直人 教授



「ワクワク」が学びにつながる教育研究に取り組みませんか？

担当分野

情報

研究内容

情報活用能力, 小学校プログラミング教育, ICTを活用した授業づくりに関する研究

電子メール

tebando@naruto-u.ac.jp

BANDO Tetsuya
阪東 哲也 准教授



スマートに, 課題を解決しましょう！

担当分野

情報

研究内容

力学シミュレーション, Webアプリ開発, ICT活用に関する研究

電子メール

ymiino@naruto-u.ac.jp

MIINO Yuu
美井野 優 准教授

鳴門教育大学を訪問して, 研究室・実験室・工作室・実験実習設備等を見学してみませんか。見学は随時受け付けています。

令和7年度入学にかかる研究室訪問など受け入れ担当教員: 曾根直人

Tel.: 088-687-6652

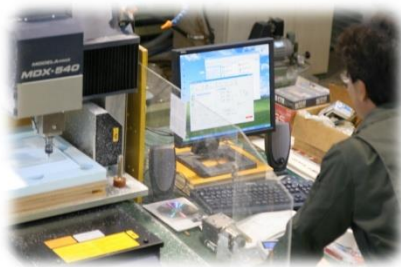
Email: naosone@naruto-u.ac.jp

※ 本教員の一覧は, 令和7年4月現在のものです。

★ 専門職学位課程担当教員および学部担当教員です。

教員のWebページは
<http://www.naruto-u.ac.jp/course/tech/>
からリンクされています。

これまでの大学院生からの声



3次元造型機を駆使した教材研究

最新の設備を自由に使えて、思い通りの形の教材を製作できるよ。子どもたちにもものづくりの楽しさを伝えたい人あ・つ・ま・れ〜



成果発表会

入学したときは、「研究」ってまったくイメージできなかったけど、先生の熱心な指導のおかげで、すばらしい修士研究ができました。発表した後のすがすがしい気持ちが忘れられないっす。

大学院生は最終学年での学修成果報告会に向けて、前年には構想発表会がポスター形式で行われます。
学部生は3年次にて仮卒業研究の発表会が行われます。こちらもポスター形式です。



構想/仮卒業研究発表会

掲示されたポスターを囲んで、皆でワイワイと議論をしています。議論を通して思いもよらぬアイデアが閃くかも!?

英語のプレゼンテーションもできます。先生と一緒に海外に旅行できるなんて、夢みたいだね。バンケットで外国の大学院生や先生と知り合いになれるという利点もアリ。ついでに、英語で論文も書いちゃった。



国際会議での研究発表

「技術・工業・情報」というと、すごくテクニカルな硬い感じがするけど、ボクが取り組んだ研究テーマでは、実際に中学校に行って研究授業したよ。準備は大変だったけど、新しい授業を創造する醍醐味があったね。



附属中学校における研究授業

大学院生だからといって、ボランティアに参加できないことはありません。子どもたちの参加するイベントでキミも活躍できるよ。



子どもたちとのふれあい

技術教員を志望しているボクにとっては、このコースの先生方と中学校・高等学校と強い結びつきがいいですね。日本の人工衛星「だいち」を使った観測実験は、新聞報道されてちょっとびっくりしました。生徒からプレゼントされた「折鶴」が宝物です。



学校と連携した研究

技術・工業・情報科教育コースを目指す皆さんへ

大学院受験などについて

よくある質問（Q）と回答（A）

受験などについて

(Q.1) 技術・工業・情報科教育コースにはどのような方が入学していますか？

(A.1) 技術・工業・情報科教育コースには、本学や他大学（教育学部、工学部、農学部、経済学部など）、省庁大学校（職業能力開発大学校など）から進学する学生、各地の教育委員会から派遣された現職の学校教員、外国人留学生などが在籍しています。多様な経歴と年代の大学院生が集まり、協働しつつ学べるのが大きな利点です。近年、教員免許取得を目指して本分野に入学する他大学等出身者の割合が増えてきています。

(Q.2) 技術・工業・情報科教育コースを修了した後の進路を教えてください。

(A.2) ほとんどの大学院生が学校教員（小・中・高等学校）または教育関係の企業に就職します。さらに、博士課程に進学し、大学教員などを目指すこともできます。本分野の教員による個別の就職指導に加え、本学就職支援室の教職員が、教員採用試験への対策をきめ細かく行っています。

(Q.3) 実技試験のために準備する資料などについて教えてください。

(A.3) 実技試験では、出願時に提出した「小論文」の内容について、あらかじめ準備した説明用資料や黒板などを使って口頭で発表していただきます。A4サイズの説明用資料であれば実物投影機を使って拡大表示できます。A3サイズ程度以上の大きな説明用資料の場合、紙芝居のように利用することもできます。なお、受験者が持参したパソコンなどの情報機器を利用することはできません。

(Q.4) 学生募集要項（選抜試験の概要）の記載されている「教職経験者等」に含まれる「推薦のあった者」について教えてください。

(A.4) 技術・工業・情報科教育コースの選抜試験では、「教職経験者等」に対して、実技試験を課さず口述試験のみ実施します。連携協力協定締結大学（徳島大学、四国大学、関西国際大学、比治山大学、京都産業大学、高松大学、聖徳大学、甲南大学、京都文教大学、秋田公立美術大学、近畿大学、中部大学、大手前大学、花園大学、京都芸術大学、下関市立大学、高知工科大学、追手門学院大学、高知県立大学（令和6年4月時点））から推薦された者、および、鳴門教育大学から推薦された者は、「教職経験者等」となります。「推薦」を希望する場合には、各大学の進路担当者にお問い合わせください。

(Q.5) 「研究希望調書」の「入学後に希望する実践研究課題・内容」と「小論文」の内容の関連性について教えてください。

(A.5) 「研究希望調書」の「入学後に希望する実践研究課題・内容」と「小論文」の関連性は、「小論文」の題目に依存します。令和7年度「小論文」の題目は「鳴門教育大学大学院において取り組みたい実践研究課題について」となっていますので、両者の内容が類似することも考えられますが、「小論文」では明確に論旨を展開するような記述が求められます。

入学後について

(Q.6) 高校・大学と文系だったので、あまり数学や理科の授業を受けていません。大学院の授業についていけるでしょうか？また、教育実践研究を行うことができますか？

(A.6) 研究テーマによっては、基本的な数学や理科の知識を必要とする内容もありますが、技術・工業・情報科教育コースには基礎的な知識、技術・技能から親切丁寧に「個に応じた教育研究指導」を得意とする教員が揃っていますので、ご心配いりません。

(Q.7) 学生時代は工学部で電気を専攻しており、木材加工に関する知識も経験ありません。木材加工の分野に興味はあるのですが、大学院での授業や研究等についていけるでしょうか？

(A.7) 中学校の技術科教員を目指す学生にとっては、材料加工のうち、とくに、木材加工は重要な内容です。授業担当教員と研究指導教員が親切丁寧に基礎から指導しますので、ご心配はありません。

学校教員養成プログラム（長期履修制度）について

(Q.8) 大学時代では専門の勉強がほとんどで全く教員免許を取得していませんでした。しかし、大学生生活や社会生活の経験を経て、今になって、教員になりたいと切実に思うようになりました。教員養成系学部を卒業していなくて大学院に入学し教員免許が取れるのでしょうか？

(A.8) 教員免許を全く取得していない場合でも、学校教員養成プログラムを利用して、所定の単位を修得することによって希望する教員免許を取得できます。なお、本学大学院入学時に学士の学位を取得していない場合の教員免許の取得方法については個別にお問い合わせください。

(Q.9) 今年度末に、大学（学部）を卒業見込みです。教員免許を取得するために、該当する授業を履修していますが、卒業時に修得できるかどうか不安で、「2年制」と「学校教員養成プログラム（長期履修制度）」のどちらにするか悩んでいます。

(A.9) 入学試験の願書提出時に、教員免許の取得が確実でない場合には、学校教員養成プログラムの利用をお考えください。本学大学院入学後、すでに修得した単位数を考慮して長期履修学生支援センターの担任教員と相談し、第1年次前期履修登録期間最終日（令和7年度の場合4月23日）までに「2年制」に変更願いを申請することができます。

(Q.10) すでに、教員免許を取得しているのですが、学校教員養成プログラム（長期履修制度）を利用することはできますか？

(A.10) すでに、教員免許を取得していても学校教員養成プログラムを利用することができます。

問い合わせ先

〒772-8502 徳島県鳴門市鳴門町高島字中島748 鳴門教育大学大学院

専門職学位課程(教職大学院) 高度学校教育実践専攻 技術・工業・情報科教育コース

令和7年度 コース責任者 宮本 賢治 教授

電子メール kmiyamot@naruto-u.ac.jp

電話 088-687-6552

令和7年度 大学院入試担当 曾根 直人 教授

電子メール naosone@naruto-u.ac.jp

電話 088-687-6652

【大学院入試関係の事務的な問い合わせ先】

鳴門教育大学 入試課 大学院 入試係

電子メール nyushidaigakuin@naruto-u.ac.jp

電話 088-687-6131